

【研究報告（令和2年度）】

チーム② 学童期・思春期の学校適応支援・活力ある人間形成の研究チーム（②-2）
学校における新体力テストの効果的な活用と体育・スポーツ資質の
向上へ向けての取り組み

乾真寛^{1,*}、築山泰典¹⁾、田場昭一郎¹⁾、泉原嘉郎¹⁾、川上翔太郎¹⁾

1) 福岡大学スポーツ科学部、*) 責任者

要 旨

本年度は新型コロナウイルスの影響により、サッカー、水泳、スノーケリング及び体力測定をサポートは全て中止となった。コーディネーショントレーニングは教員向けに体育授業における導入・応用方法をテーマに実施した（計3回）。体力測定サポートパートでは前年度までのデータを用いて、生まれ月と体力との関係を再検討した。次年度では、昨年度作成した新評価基準の妥当性の検定及び体力評価結果との連続性・一体感のある内容へ改良、普及に努める。

1. 活動状況

【キッズサッカー、水泳、スノーケリング】

本年度は新型コロナウイルスの影響により、全ての活動は中止となった。

【コーディネーショントレーニング】

令和2年度においては、次の(1)～(3)の3点に重点を絞り、研究・実践活動を行った。

(1) 小学校教員向けの研修会

2019年度に福岡市教育委員会より発刊したコーディネーショントレーニングの書籍、及びDVDを用いた体育授業における導入・応用方法をテーマに、以下の研修会を実施した。

- 2020年8月26日：福岡県大野城市大野北小学校の教員向け研修会を実施（お手玉を用いたコーディネーション運動の実践法）。
- 2020年9月16日：福岡県大野城市大野北小学校の教員向け研修会を実施（スカーフを用いたコーディネーション運動の実践法）。
- 2020年9月30日：福岡県大野城市大野北小学校の教員向け研修会を実施（ボールを用いたコーディネーション運動の実践法）。

(2) 研究調査

「コーディネーショントレーニングの効果検証」コーディネーショントレーニングの効果検証を目的とした、小学校の体育授業における介入研究に関しては、メンタルストレスの軽減効果やスプリント能力の着実な向上効果が確認されるなど、着実な成果が得られている。

・2020年11月～12月：介入研究（スプリント能力の向上効果検証/大野城市大野北小学校）

・2021年1月～2月：介入研究（メンタルストレス軽減効果の検証/大野城市大野北小学校）

(3) アウトソーシング

チーム2・コーディネーショントレーニング班でこれまでに行ってきた研究活動の成果報告（アウトソーシング）として、以下の成果発表を行った。

① 書籍内「動画でわかるサッカーコーディネーショントレーニング」（泉原,2020）における福奏プロジェクト [チーム2・コーディネーショントレーニング班] の研究成果を執筆した。

② 福岡県内の全ての小学生児童（3年生以上）へ配布された西日本子ども新聞（2020年7月号）

において、過去の介入研究（コーディネーショントレーニングの効果検証）で得られた成果を基に、もやもや気分を吹き飛ばす（疲労回復系）コーディネーション運動プログラムを作成。運動内容の解説動画を作成し、QRコードを添付（図1参照）。スマートフォンからのデジタルメディア・アクセスを主とする資料を執筆した。



図1. QRコードを用いた運動紹介例

③ 論文等において、これまでに小学校等で行った実践研究の一部について、成果報告を行った。

【2020年度アウトソーシング文献一覧】

- 1) 泉原嘉郎 (2020) . 動画でわかるサッカーコーディネーショントレーニング. 大修館書店:p13-14 (コラム: 福奏プロジェクトにおける研究・実践事例).
- 2) 泉原嘉郎(2020). 西日本新聞特集子ども新聞. 運動でもやもや気分をふきとばす. 西日本新聞社. P7.
- 3) 泉原嘉郎,乾真寛 (2021) . ICTメディアを活用した用事および児童向けコーディネーション運動プログラム普及・実践の試み. 福岡大学スポーツ科学研究第51巻第2号.
- 4) 泉原嘉郎(2021). 子どもの脳神経を目覚めさせるっておきコーディネーション運動～メンタルストレス軽減効果の検証～. 神経治療学第38巻(5月発刊予定 / now in press).

最終年度となる次年度に向け、教員向け研修会や介入研究の継続実施はもちろんのこと、これまでに得られた研究成果のアウトソーシング

の機会を、着実に重ねていきたい所存である。

【体力測定サポート】

新型コロナウイルスの影響により、本年度の全ての活動は中止となり、前年度までのデータを用いて生まれ月と体力との関係を再検討した。

2019年度の新体力テストを受けた福岡市内にある7校の小学生児童2289名(男児1188名、女児1101名)を本研究の対象とした。対象児童を生まれ月に基づき、4群(4～6月、7～9、10～12月、1～3月生まれ)に振り分け、生まれ月が身体組成や運動能力に及ぼす影響を検証した。

生まれ月と身体組成の関係に関して、1～3月生まれの児童の体格は4～6月生まれの児童と比べて小さかった。また、生まれ月と運動能力との関係に関して、長座体前屈以外の全ての測定項目で4～6月生まれの児童は1～3月生まれの児童と比べて優れていた(図2)。生まれ月の違いは児童期の身体組成・運動能力に対しても影響を与えることが示唆される。

今後、年齢や性別の観点から生まれ月と運動能力の関係をさらに解析することで、より詳細な関連性を解明できる可能性がある。

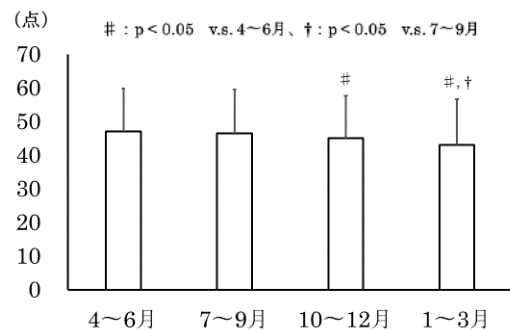


図2. 4群での新体力テストレベルの比較

2. 今後の展望

次年度は新型コロナウイルスの感染状況を鑑みながらサポート活動及び研究を進める。

体力測定サポートに関しては、生まれ月を考慮した新体力評価作成の検討をさらに深めるとともに出生体重の考慮も視野に入れ検討する。また、体力評価結果との連続性・一体感のある内容へ改良、普及に努める。